

# 只今、和歌山とともに——私が伝えたいこの街の温度

庄曉潤

経済学研究科修士2年生 国籍：中国

「なぜ和歌山なのですか。」

日本で生活する中で、私は何度もこの質問を受けてきた。東京や大阪のような大都市ではなく、なぜ和歌山を選んだのか。以前の私は、その問いに明確な答えを持っていたわけではなかった。

しかし、時間が経つにつれて気づいた。和歌山が私に与えてくれたものは、単なる留学生生活の場所ではない。ここは、私自身を見つめ直し、人と人、そして人と土地とのつながりを考えるきっかけを与えてくれた大切な場所である。だから今の私は、迷わずこう答えることができる。「和歌山で、私が本当に大切にしたいものを見つけたから。そして、この街の魅力をもっと多くの人に伝えたいと思ったから。」

和歌山での生活は、決して最初から安心できるものではなかった。中国を離れ、日本という新しい環境に飛び込んだ時、言葉や文化、生活習慣の違いに戸惑うことも多かった。家族も、昔からの友人もそばにはいない。多くのことを自分で判断し、乗り越えなければならなかった。

「本当にここで生活していけるのだろうか。」

「自分の選択は正しかったのだろうか。」

そう悩んだこともあった。しかし、一つひとつ困難を乗り越える中で、私はあることに気づいた。人は、いつも安心できる環境の中で成長するわけではない。不安や変化、未知のものと向き合う時こそ、本当の成長が始まるのだと。

現在、私は和歌山大学大学院で学んでいる。修士二年生になった今、和歌山は私にとって「生活する場所」から「伝えたい場所」へと変わった。その大きなきっかけが、指導教員とともに訪れた有田市での調査活動である。

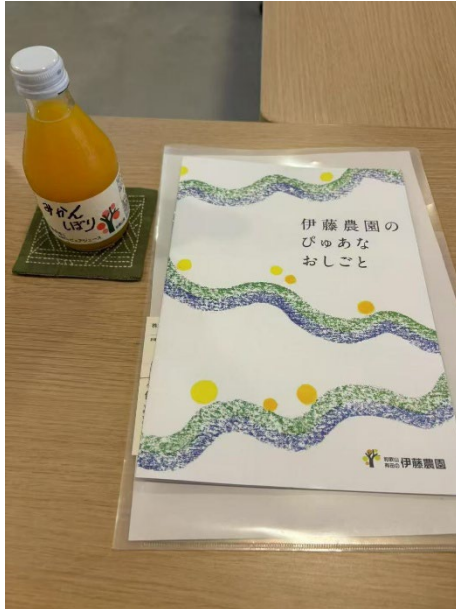
私たちは現地を訪問し、地域の方々と交流しながら、産業の発展について学んだ。和歌山県有田市はみかんの産地として有名である。しかし、私が本当に心を動かされたのは、みかんそのものだけではなく。長い年月をかけて土地を守る農家の方々。伝統を大切にしながら、新しい価値を生み出そうと挑戦する人々。そこには、「自分の故郷をより良い場所にし、その価値を未来へつなげたい」という強い思いがあった。

調査の途中、先生が私に有田のみかんジュースをごちそうしてくださった。その味は今でも忘れられない。しかし、心に残ったのは甘さだけではない。その一杯には、生産者の土地への愛情、長年の努力、そして和歌山という土地の温かさが込められていた。また、半分のみかんを使ったハンバーガーにも出会った。初めは「みかんとハンバーガーが合うのだろうか」と驚いた。しかし、食べてみると、その発想に感動した。

そこには、伝統を守りながら、新しい未来を創造していく和歌山らしい精神があった。その経験を通して、私は地域の本当の魅力を理解した。地域の価値とは、最初から完成されたものではない。そこに暮らす人々が、時間をかけて守り、努力し、創り上げ、次の世

代へ受け継いでいくものなのだ。

人生も同じである。私たちは過去を振り返り、未来に不安を感じることがある。しかし、和歌山は私に「今を大切に生きること」を教えてくれた。みかんが太陽や雨を受け、時間をかけて成熟するように、人にもそれぞれ成長する時間がある。焦らず、自分の歩みを信じ、一歩ずつ進めばよい。和歌山の穏やかで温かな暮らしは、私に人生と向き合う姿勢



勢を教えてくれた。そして、和歌山で過ごした時間が積み重なるほど、私はこの地域とのつながりを強く感じるようになった。

和歌山への思いは、単なる居場所への愛着ではない。それは、人と土地の間に生まれた深いつながりである。再びこの街を訪れ、支えてくださった方々と交流すると、止まっていた時間が再び動き出すような温かさを感じる。和歌山は、私の成長を見守ってくれた場所である。日本に来たばかりで不安を抱えていた留学生が、人と人をつなぐ存在へ成長する過程を支えてくれた場所でもある。

私は中国から来た留学生である。しかし同時に、和歌山で学び、和歌山の人々に支えられ、この街の魅力を発見した一人でもある。これから私は、和歌山の魅力を伝える人になりたい。本当にその場所を好きになるということは、ただ温かさを受け取ることではない。その魅力を、もっと多くの人に届けたいと思うことである。

私と和歌山の出会いは、偶然だったのかもしれない。しかし、その偶然は私の人生を豊かにする大切なご縁になった。これからも、和歌山から受け取った温かさを、次の誰かへつないでいきたい。



# 此刻，与和歌山同行——我想传递的这座城市的温度

XiaoRun Zhuang

经济学研究科修士2年生 中国

「为什么是和歌山呢？」来到日本生活以后，我经常被问到这个问题。为什么不是东京、大阪这样的大城市，而选择和歌山？过去的我其实无法给出准确答案，也许最初只是人生道路上的一次普通选择。但随着时间推移，我逐渐发现，和歌山给予我的，不只是留学生活，更是让我重新认识自己与人与土地关系的重要经历。现在的我可以坚定地回答：“因为我在和歌山找到了自己真正珍惜的东西，也希望让更多人了解这座城市的魅力。”成长并不一定发生在安稳熟悉的环境中，很多时候，真正的成长恰恰来自不安、变化与未知。对我而言，留学正是这样的旅程。

人并不是总是在安心的环境中成长。对我而言，在和歌山留学生活的过程中，通过面对不安、变化以及未知事物的经历，我切身体会到了这一点。离开中国，踏入日本这个全新的环境时，我经常会因为语言、文化以及生活习惯的不同而感到困惑。家人和从小的朋友都不在身边，很多事情都必须由自己判断，并自己去克服。

“我真的能够在这里生活下去吗？”“我的选择真的是正确的吗？”我也曾这样烦恼过。但是，在和歌山的生活中，每当克服一个又一个困难时，我都在一点点成长。我明白了，人，并不是总在安逸的环境中成长。真正的成长，往往是在面对不安、变化和未知的时候开始的。

现在我在和歌山大学大学院学习。进入修士二年级后，我看待和歌山的方式也发生了变化。它不再只是“生活的地方”，而成为“想传递给更多人的地方”。其中一个重要契机，是与指导老师一起前往有田市调查。

我们走访当地，与居民交流，了解产业发展。有田市以橘子闻名，但真正打动我的并不是橘子本身，而是那些守护土地多年的农户，以及在传统基础上不断探索创新的当地人。他们珍惜过去，也勇敢面对未来，传递着朴素却坚定的信念：希望家乡变得更好，并传递给下一代。途中老师递给我一杯有田橘子汁，我至今仍记得它的味道。甜味之外，更打动我的是背后的故事——生产者对土地的热爱与长期坚持。后来我还尝试了用半个橘子制作的汉堡，起初非常惊讶，但品尝后却被其创意吸引。我感受到一种属于和歌山的精神：在珍惜传统的同时，也拥有创造未来的勇气。通过这些经历，我逐渐理解和歌山的真正魅力。一个地区的价值，并不是一开始就完整存在的，而是在一代代人的珍惜、努力与创造中不断形成的。

人生亦是如此。我们会怀念过去，也会因未来而不安。但和歌山让我明白，重要的是珍惜当下。就像橘子经历阳光、雨水与时间才会成熟，每个人也有自己的成长节奏，不必急于证明，只需一步一步前行。随着在和歌山度过的时间不断累积，我越来越感受到自己与这个地区之间的深厚联系。我对和歌山的感情，并不仅仅是对一个生活场所的留恋。这里见证了我从一个初来日本、充满不安的留学生，逐渐成为能够连接人与人关系的人。未来，我希望成为传递和歌山魅力的人。真正喜欢一个地方，不只是接受它给予的温暖，更希望让更多人了解它。我与和歌山的相遇或许是偶然，但这份偶然已成为人生中重要的缘分。我也希望将这份来自和歌山的温暖，继续传递下去。